

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 20 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4090900020		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ麦野		
所在地	福岡市博多区麦野3-15-22 〒812-0882 (電話) 092-588-6181		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年10月19日	評価確定日	平成21年11月19日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 22 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 11 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	16 人	常勤	14 人	非常勤 2 人 常勤換算 15 人

## (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	2 階建ての～ 1～2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 225,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日あたり	1,000 円程度		

## (4) 利用者の概要( 9 月 22 日現在)

登録人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	友田病院・成富整形外科・大町歯科・福岡徳州会病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に位置し、母体法人の社は「誠意・誇り・情熱」や経営理念「…社業の発展を通して豊かな人間生活の向上に貢献します」をもとに、「地域、地区の活動に積極的に参加し、地域の方々との交流、触れ合いを大事にします」「いつでも笑顔で、明るく、楽しい、ホーム作りを目指します。」などの事業所独自の理念を掲げている。家庭的な雰囲気の中で、常に利用者の尊厳を守り、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、おだやかな笑顔に包まれているホームである。近隣小売店からの食材の配達や利用者の希望による近隣美容室の利用などを通じて、地域との交流が図られている。運動会などのホーム行事に地域住民や子ども会の参加が見られたり、地域の清掃活動へ参加するなど、地域とのかかわりを重視した取組みがある。今後の発展が、大いに期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について運営推進会議時に報告を行い、職員へは改善についての協議を行うなどの取組みがある。この過程で、センター方式の活用や地域の清掃活動への参加が行われるなどの具体的な成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、管理者等で評価項目の内容を確認するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会副会長、老人会会長、子ども会会長、いきいきセンターふくおかの担当職員、家族などの参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、いきいきセンターふくおかの担当職員から介護保険制度についての説明や、歯科医師から口腔ケアについての説明を行い、介護教室を開催するなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	面会時の声かけや介護計画書の説明時、家族会などを通じて、利用者の日常の様子や外出・行事参加の様子などを報告している。毎月、利用者毎にホーム通信を家族へ送付し、利用者の生活状況や行事参加の様子、来月の行事予定について報告するなど、家族との連携が密に図られている。介護計画書の説明時、家族会などを通じて、家族との交流を深めながら要望や意見を出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム行事の運動会に地域の子どもの会の参加や敬老会・クリスマス会などへ地域住民の参加が見られたり、地域の清掃活動・消防訓練に参加するなど、地域との交流を図る取組みがある。地域の小売店からの食材の配達時や日用品の購入時の声かけ、散歩時の挨拶など、地域とのかかわりを重視した取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	母体法人の社是、経営理念をもとに「地域、地区の 活動に積極的に参加し、地域の方々との交流、触れ 合いを大事にします。いつでも笑顔で、明るく、楽し い、ホーム作りを目指します。…」の事業所独自の理 念を全職員にて作成し、地域とのかかわりを大切にし ながら、日々の業務に積極的に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、自然に目に入る工夫がある。 日々の業務の中で常に理念と照らし合わせてケアの 内容を確認したり、月1回のケアカンファレンスにて理 念に基づいたケアの内容について協議するなど、理 念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	ホーム行事の運動会に地域の子ども会の参加や敬 老会・クリスマス会などへ地域住民の参加が見られ たり、地域の清掃活動・消防訓練に参加するなど、地 域との交流を図る取組みがある。地域の小売店から の食材の配達時や日用品の購入時の声かけ、散歩時 の挨拶など、地域とのかかわりを重視した取組みが ある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組ん でいる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へは、改善についての協議を行うなど の取組みがある。この過程で、センター方式の活用や 地域の清掃活動への参加が行われるなどの具体的な 成果が見られる。今回の受審にあたり、管理者等で 評価項目の内容を確認するなどの取組みがある。		今回の自己評価にあたり、管理者・計画作成担当 者・ユニットリーダー間で評価項目の内容を確認する取 組みがみられます。今後、職員全体で評価項目の内 容について協議することにより、質の向上に向けた 日々の業務の振り返りや職員全体の意識向上に繋 げるなどの取組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会副会長、老人会会長、子ども会会長、いきいきセンターふくおかの担当職員、家族などの参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、いきいきセンターふくおかの担当職員から介護保険制度についての説明や、歯科医師から口腔ケアについての説明を行い、介護教室を開催するなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にいきいきセンターふくおかの担当職員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携や行政窓口へ赴いての相談、電話連絡など、行政との連携を図りながら、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する資料を準備し、必要に応じて利用者・家族に制度の概要や利用手順についての説明、支援を行っている。今後、運営推進会議時にいきいきセンターふくおかの担当職員から、成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明してもらい、家族や職員全体で理解を深めていく予定である。		今後、予定されている運営推進会議で、情報提供の機会を設け、地域や利用者に活用していただけるような支援を期待します。同時に、職員全員が支援に必要な知識を持ち、必要な時に支援できる体制が整えられることを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の声かけや介護計画書の説明時、毎月のホーム通信、家族会などを通じて、利用者の日常の様子や外出・行事参加の様子を報告するなど、家族との連携が密に図られている。遠方の家族へメールを活用して報告したり、面会の少ない家族へ個別に手紙で健康状態などについて報告するなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画書の説明時、家族会などを通じて、家族との交流を深めながら要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。面会時の何気ない言葉・些細な態度などから、家族の意向の把握に努めている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、日頃から利用者や職員の交流が図られており、利用者との馴染みの関係が保たれる様な体制を整えている。新しい職員が入職した際は、ユニットリーダーとともに業務に携わり、利用者へのかかわりを主に行ってもらいながら、管理者やユニットリーダーが見守り・指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用についての制限はない。平常心や笑顔などを重視しての採用である。職員の長所を活かすため、環境美化委員会や献立委員会など各種委員会に所属してもらい、職員一人ひとりの能力を育てながらやりがいを持って勤務していく体制が整えられている。資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務や全体会議にて人権尊重や高齢者の尊厳について管理者が指導を行い、職員全体の人権意識を喚起する取組みがある。今後、身体拘束・虐待委員会を中心に言葉の抑制・拘束などについて勉強会を行う予定である。外部研修などへの参加を通じて、職員間で人権教育・啓発活動について理解を深める取組みは今後の課題である。		毎月、事業所内で人権意識を喚起する勉強会が行われています。今後、行政で行われる人権研修に職員が参加したり、運営推進会議時や出前講座の利用を通じて、職員の人権意識をさらに高め、様々な視点や対象を取り入れた人権学習が継続して展開されることを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、案内を提示して参加を募ったり、研修内容を考慮して管理者が参加を促すなど、研修参加の機会を確保する取組みがある。毎月、全体会議にて認知症などについての勉強会や受講報告会を行い、職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人の事業所間での情報交換会などに管理者が参加し、法人全体でネットワーク体制が整えられている。近隣の他事業所への見学や意見交換、交流など、質の向上に向けての取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族の見学や面談などを通じて、自宅での生活の様子や本人・家族の意向を把握し、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、状況に応じて家族への面会をお願いし、利用者へは頻繁な声かけを行い、かわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除の仕方や物の大切さ、昔の体験談など、人生の先輩として常に利用者から学ぼうとする取組みがある。利用者と職員が自然に感謝やねぎらいの言葉をかけ合ったり、常にあたたかい雰囲気を保ちながら、お互いを尊重し、共に過ごしている関係が何えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時の面談や家族の面会時、家族会などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。また、日常のかかわりの中で、利用者の動作や表情などから利用者の思いや意向を汲み取り、センター方式にて記録している。把握した情報は、ユニット会議のカンファレンスにて職員全体で検討し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向及びケアの内容について職員全体で話し合い、計画作成担当者が介護計画書を作成する取組みがある。日常のかかわりを通じて、担当職員が主に毎月、利用者・家族の意向やケア内容の実施状況、満足度評価のモニタリングを行い、ユニット会議にて職員全体で検討し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月、担当職員にてモニタリング評価を行い、状況 の変化時や家族の希望時、入居1ヵ月後(その後は 3ヶ月ごと)に内容の検討及び再作成が行われてい る。月に1度のカンファレンスにて、職員全体で利用者 の情報交換や心身状況の変化、家族の意向の確認、 ケアの手順・変更内容について検討が行われてい る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による往診 や訪問看護による連携支援が行われている。また、 緊急時の受診介助及び入院先の主治医・医療関係 者との連携がある。馴染みの美容室や近隣の訪問理 美容の利用など、利用者の状況や家族の要望に応じ て、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医との連携により、週1回の訪問診 療や2ヶ月に1回の訪問看護師による利用者の状態 把握及び対応、状態に応じた協力病院への受診の支 援がある。かかりつけ医への受診については、家族 の協力のもと支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や看取りの指針について説明し、 必要時、利用者の意思をふまえた上で再度、家族等 の意向を口頭で確認している。状況の変化に伴い、そ の都度家族、主治医、事業所を交えて協議し、方針を 共有していく取組みがある。書面による説明及び本 人・家族の希望に沿った支援体制づくりについては、 今後の課題である。		できるだけ早い段階で、書面による重度化や看取 りの指針についての説明及び希望の確認を行い、本 人・家族の希望に沿った支援体制が整えられること を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、日々のケアや全体会議時に管理者が指導し、 職員の意識の向上を図る取組みがある。タイミングを 見計らっての利用者一人ひとりに応じたさりげない声 かけや視線を合わせて笑顔で傾聴するなど、利用者 の自尊心やプライバシーに配慮した対応が見られる。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら声かけを行っている。利用 者の希望や状況に応じて、レクリエーションの参加や 談話、テレビ鑑賞、食事・入浴のタイミング、食事の ペースなど、利用者一人ひとりのペースを尊重し、支 援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人内の管理栄養士が作成したメニューを参考に、 地域の小売店の食材を使用してホーム内で調理して いる。利用者は、料理の盛りつけ、食器拭きなど、で きる範囲で職員と一緒に協力しながら行っている。月 に1回パンの日を設け、利用者には好評を得ている。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	隔日の午後の入浴が基本であるが、利用者の希望 に応じて、毎日の入浴や午前中の中の入浴も可能であ る。入浴の回数や順番、入浴開始時間など、利用者 の体調に配慮しながら、利用者一人ひとりの希望に 応じて柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	調理や料理の盛りつけ、食器拭き、洗濯物たたみ、 植木の水やり、家庭菜園の収穫・草取りなど、利用者 の出来ることや生活歴などを把握し、利用者一人ひと りのペースに合わせた支援を行っている。刺し子や行 きつけの美容室の利用など、日常のかかわりの中で 利用者の楽しみごとや得意なことを把握した上での働 きかけが見受けられた。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	ホームのテラスで家族とバーベキューを楽しんだり、 天気の良い日は、外気浴を楽しむなど、利用者の状 況に応じてできるだけ戸外に出かける支援が行われ ている。個別の希望に沿って、少人数での買い物や 外食、近隣の美容室への外出支援、行きつけの美容 室への利用支援、日々の散歩など、利用者の希望や 状況に応じて柔軟に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関はセンサーを設置しているが、ユニット間や居 室の開き戸は開錠されており、自由に出入りできる。 職員は、きめ細かな観察により利用者の様子を見守 りながら、外出傾向のパターンを把握し、さりげなく声 をかけたり、利用者と一緒に出かけるなど、利用者の 自由と安全に配慮しながら適切に支援している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の消防署の指導による避難訓練を実施し、 避難場所や避難経路、消火器の使い方などを確認し ている。運営推進会議や日々のかかわりを通して、近 隣への協力を得るための働きかけを行う取り組みがあ る。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	法人内の管理栄養士が作成した栄養バランスやカ ロリーなどを考慮したメニューを参考に、ホームにて 調理し提供している。利用者毎に毎回の食事量や水 分量の記録を行うなど、栄養摂取や水分確保への支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前のプランターには、季節の草花が咲き誇り、玄 関横の生け垣や木々が心和ませる空間を醸し出して いる。リビング内は、自然光を採り入れ、ホームのテラ スで家族とバーベキュー大会を楽しむなど、居心地よ く過ごす工夫がある。季節感のある飾りつけや利用者 の手作り作品が飾られるなど、アットホームで心和ま せる家庭的な雰囲気を醸し出している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	フローリングの居室には、なじみの家具や仏壇、テ レビ、ソファ、調度品、家族の写真などの馴染みの 物や使い慣れた物が持ち込まれており、安心して居 心地良く過ごせるための工夫や配慮が見られた。		

は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号